

申請者 所属・職：健康科学部・准教授
氏 名：毛利 志保

論文掲載概要

論文題名	宿泊施設におけるバリアフリー情報の提供および客室の実態
論文著者	毛利志保、加藤悠介
掲載雑誌名	日本建築学会計画系論文集
掲載雑誌 IF	0.8 (JAPAN ARCHITECTURAL REVIEW) https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/24758876/journal-metrics
掲載ページ	350-356
掲載雑誌 URL	https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ai.ja/-char/ja/
発行年月日	2025 年 3 月 1 日
雑誌出版社	日本建築学会

論文抄読

1. 概要
- 本研究は、宿泊施設におけるバリアフリー情報の提供状況と客室の実態を把握し、課題を明らかにすることを目的とする。調査の結果、バリアフリー客室の有無を明示している施設は全体の 25%にとどまり、情報提供が不十分であることが判明した。また、バリアフリー客室の面積はツインルームより平均で 7 m²広い傾向がみられた。
2. 方法
- 外出支援専門員へのヒアリングと、N 市のホテル 183 施設・T 市の旅館 64 施設の公式サイト調査を行った。外出支援専門員に対しては、当事者が宿泊の際、事前に必要とする施設情報について尋ね、調査対象である市の選定については観光依存度や発展性を考慮した。
3. 結果
- バリアフリー客室の情報を公式サイトで公表しているホテルは全体の約 25%にとどまり、必要な情報（寸法・段差・共用部の動線等）も不十分であった。バリアフリー客室の面積は通常より平均 7.5 m²広いが、根本的な普及には新築時からの計画的整備が必要である。旅館では公表率がさらに低く、建築的制約が課題である一方、詳細情報を提供する施設も存在し、今後の展開への期待が推察される。
4. 結論
- 本研究は、宿泊施設のバリアフリー情報が十分に提供されていない現状を明らかにした。障害者の選択肢を広げるには、まず客室有無の明示、画像・寸法など具体的情報の提示が求められる。